

---

# 窮屈なこの国。

玉椿寿

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

窮屈なこの国。

### 【NZコード】

NZ8919Y

### 【作者名】

玉椿寿

### 【あらすじ】

窮屈だ。早くこの国を出たい。

彼女に会つまでの俺は、本当に小さな人間だった。

窮屈だ。

この国ほど窮屈な国はない。

心の小さな人間ばかりが集まつて 傷をなめあつてゐる。  
しかし、そんなこといつたつて僕もその国民の一人だ。

\*

僕はとりあえずこの国を出たいといつて生きてきた。  
いつからだろう、中学で奇抜な考え方ばかりしていたのを、変人扱い  
されてからだろうか。

二十歳になつた今でも思つてゐる。

だが事実、一度も海外へ行つたことはなかつた。

その日は、桜が咲いていた。

しかし僕はこの国を出ることだけを考えて歩いていた。

上なんか見るはずもない。

そんなとき彼女にぶつかつた。

ドン

「わわっ」

ハツとなつた。

僕はどこを歩いているかもわからないほど考えていたのだ。

「す、スマセン . . .

彼女がよろけてこけそつだつたので、あわてて腕をつかんで姿勢を整えさせた。

「あ、ありがとうございます」

見たこともない子だつた。

あたりまえだ。大学なんか何百人の生徒がいるのだ。

全員の顔と名前を覚えるくらいなら英単語を一つ覚える。

僕はそういう人間だつたから。所詮この国の人間たちと同じ、小さい人間だ。

「さ、桜が綺麗ですねえっ」

彼女はやけに無邪氣で、そして楽しそうな声で言つた。

「え？」

「桜です。ほら、上ー。」

反射的に上を見る。

まるで流星群の「ご」とく、

降り注ぐ雨の「ご」とく

桜は僕の上空を踊つていた。

「ああ…。」

彼女は僕より200mくらい小さいから一生懸命に上を見ている。

「わ、私が上を見ていたからぶつかつてしまつて…」

それはちがう、僕が変な……とてもくだらないことを考えていたから…。

「でも、下を向いて歩いていたでしょ? 上を見たらこんなに綺麗なものがあるって気付かなかつたですよね、じゃあぶつかつたのにも意味があつたかなあ。」

「ええ…僕はとてもくだらないことを考えていたのか、と思いまし  
た。この桜を見たらもう僕らの考えなんてちっぽけで…」

すると彼女は一瞬驚いた顔をして、次はしっかりうなずいて言つた。

「この景色、見せられて良かつたです。」

「ええ、僕も見せてもらつてとてもよかったです。」

それから僕らは少しだけ話をした。

僕はこの国について彼女に話した。

すると彼女はふふっと笑つて言つた。

「でも、この景色。この国じゃなきや見れません。桜は、この国  
にしかありませんか？」

「そう…ですね…。」

「私が、あなたと出逢えたのもこの桜の木があつたからです  
…はい」

僕はすっかり彼女のトリロ�だつた。

もう、この窮屈な国についてなんて悩むのももつたいないと思つた。  
この国にも、いいところがあるじゃないか。

そう、君と同じ名前の「桜」が見れるのはこの国だけなんだから  
。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8919y/>

---

窮屈なこの国。

2011年11月26日21時53分発行